

2022年9月15日(木)

老球の細道689号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トスティン・ロイブル」⑤

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

豚もおだてりゃ木に登る。室井もおだてられれば通信すぐを書く。

前回の通信送信後すぐにO先生から「続きを早く読みたいです」とお世辞メールが届いたので、齢など忘れてしまったが、齢甲斐もなく二日も経たないうちに書いてしまった。豊臣秀吉の一夜城、明智光秀の三日天下、わが孫の三日坊主に匹敵する快拳である。

ちなみに、早さは誠意をあらわすが、何事も急いで事は仕損じる。今回の内容は当時を思い出して書いてみた。岸田首相より支持率が上がる内容になるかどうか。

【UCLA 大学練習見学②】

当時のUCLAは全米ランキング第2位の実力チームで、次の年はNCAAトーナメントでチャンピオンに輝いている。2m台の選手がごろごろしており、後に日本でもプレイしたチャールズ・オバノン兄弟がエースとして頑張っていた。コーチは名将ジム・ハリック。日本でも指導用ビデオがシリーズで後に販売された。もちろん私も購入した。

UCLAの練習見学で感心したことが二つあった。一つは前号でも書いたが、練習前のミーティングの緻密さと真剣さである。ただ単にハドルを組んで掛け声をかけ、コーチの「今日も暑いけど集中して頑張ろう」という無意味なスピーチではない。練習の目標や頑張りどころを具体的に話をして選手の頭に叩き込ませ、眼の色が変わる本物のスピーチである。

私は帰国後真似して、練習前のミーティングに相当な労力を使うようになった。毎回練習のことだけでなく、選手の興味関心、モチベーションアップに影響を与えるトピック(人生、哲学、歴史、社会問題、スポーツの快拳等)を集めて、バスケットボールに関連させながら毎回10分間位話をした。時々話を聞いているうちに居眠りをしてしまう生徒もいたが、人間力を高めない限りバスケットボールの能力は高まらないと考えやり続けた。

もう一つ感心したことは、練習メニューの組み方である。同じような練習を系統的に続けるのではなく、-halfコート練習をしたら次にオールコート、個人技練習をしたら次にコンビネーションプレイと、選手が飽きることのないよう、常に新しい刺激を与えられる合理的な練習メニューの配列だった。料理で言うと懐石料理、コース料理の順序配列の発想だろうか。見ていても飽きずに見学ができ、いつの間にか終わっていたという感じである。

「UCLAカット」は今でも世界のトレンドであるが、この時は本家本元の「UCLA オフェンス」の分解練習やオブションプレイを見せてもらった。かつて現役選手だった頃、吉井四郎氏から「UCLA オフェンス」を指導してもらったが、ちょっとバリエーションを工夫することで独創的なチームオフェンスを創造することができることも学ぶことができた。

とにかくドリルの引き出しが豊富である。このような練習を毎日見学することができたらどれほど有意義な学びができるだろう。コートには日体大大学院生が留学で来ており、ジム・ハリックのお手伝いをしていた。何事も、現在は二流でも、目指すは超一流。〈続〉